

第2学年 1組

1 研究テーマ

「返事やあいさつがきちんとできる子どもの育成」―生活・国語科の学習を通して―

2 育てたい力

☆表現力

○返事やあいさつがきちんとできる。

○自分の思いや考えを相手にわかるように伝える。

☆コミュニケーション

○相手の話を聞き、話題に沿って質問したり、答えたりできる。

○会話のスキルを身に付ける。

3 研究の視点と手だて

【視点1】返事やあいさつを徹底し、相手を意識し、自分の意志や考えを持つ。

①返事やあいさつをすることで、相手を意識し、自分から人とのかかわりを持つようにさせる。

②自分の考えを相手に伝える方法のスキルを身に付ける。

【視点2】相手の話をしっかり聞き、その場に応じた対応をする。

①話を聞く・話し合いをする等のルールを身に付けさせる。

②学習形態を工夫し、くり返しの練習の場を確保する。

4 研究テーマへのアプローチ

(1) 研究テーマについて

校内研究のテーマである「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」の具体的な手だてとして、2年1組では、返事やあいさつがきちんとできることを第一のねらいとした。

表現力・コミュニケーション力を高めるには、まず、相手を意識することが第一歩である。そして「返事をする・あいさつをする」ということは相手を意識して行う行為である。

2年1組の実態として、自分からは他者とあまりかかわりをもとうとしない児童や、自分の思いを伝えたい…話したい…という思いがあるのに、言葉よりも涙が先に出てくる児童が多い。そこで、抵抗無く人とのかかわりを持つ身近な方法として、生活の基本である「返事やあいさつをきちんとする」ということを設定した。

人とのかかわりを持つことで、自分の思いを相手に伝える楽しさ・相手の考えを知ることの楽しさを味わうことが出来る。そこでまず、あいさつを毎日のめあてにして、週に一回ふり返りの場として道徳の「こころのノート」を活用するように実践している。また、教室の中で互いにかかわりあうことをねらいに、日直がスピーチをする時に話し手と聞き手が言葉をかけ合うようにしている。話し手の日直がスピーチで「楽しかったです…くやしかったです…」と自分の思いを話した後に、クラス全員で「どうしてですか。」と質問を投げかけ、日直は「訳は〇つあります。」と答える質疑応答の形式を話し方のスキルとして取り入れている。このようにスキルとして身に付け、いろいろな学習の中で生かしていくようにする。

第2学年1組 成果と課題

1 授業の反省

- かかわり合って生きていることの読み取りについて
 - ・ イソギンチャクとクマノミについて、それぞれの立場でどんな敵から相手を守ってあげるのかという視点を明確にしたことで読み取りが十分にできた。
 - ・ 生きものたちのかかわりをまとめやすくするためのワークシートの工夫は、読み取りをより確実なものにするのに有効であった。
 - ・ クマノミやイソギンチャクの気持ちになって、二人組で会話のやり取りをしたり、動作化することで、さらに読みを深めることができた。
- インタビューの形でのまとめについて
 - ・ インタビュー形式は学習としては初めての経験であるため、基本台本を使って、インタビューの流れを提示し、有効であった。
 - ・ 台本作りの手順は、グループ毎に自分たちで話し合って決めていたが、初めての取り組みなので、もっときめ細かく指示を出したほうが良かった。
 - ・ 台本作りの作業の過程で、グループ内での話し合いがしっかり出来ていた。このことは本単元以前の話し合い学習の積み重ねの成果が出てきたと思われる。
 - ・ 発表会は、どのグループもはりきって行うことができた。さらに各グループで表現の仕方が違うということに児童自身が気づくことが出来た。全員が知っている内容なので、発表の内容を確認しながら聞くことが出来たからである。また、同じ質問に対してグループにより答え方が違っていたので、いろいろな表現の仕方があることを知るよい機会となった。

2 1年間の取組の成果

- 【視点1】返事やあいさつを徹底し、相手を意識し、自分の意志や考えを持つ。
 - ・ 元気の良いあいさつが出来ようになってきた児童が多い。周囲の人と自分がかかわりあっていることが認識出来るようになってきた。その結果、自分から進んで友達に話しかけるようになり、友達関係が広がってきた。
- 【視点2】相手の話をしっかり聞き、その場に応じた対応をする。
 - ・ 国語や生活科の学習では特に話し合う活動が多く、学習全般にわたって聞く・話すの活動に慣れてきた。また、1年間の経験を積み、話し合いのルールも身につけてきた。
 - ・ 朝の会で毎日交代でスピーチをしている。話し方を決め、くり返し練習することにより、話す内容をまとめることやみんなの前で話すことへの抵抗感がうすらいできた。

3 課題

- ・ 教室では返事やあいさつが良くなったが、生活の場ではもう少しのところがある。
- ・ 発表にはワークシートが有効であったが、低学年は個人差があるので、さらなる支援の方法が課題である。

第2学年2組

- 1 研究テーマ 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」
ー 相手の考えのよいところを見つけられる子供を目指して ー

2 育てたい力

◆表現力

- 内容を整理して書くことができる。
- 事柄をわかりやすく順序だてて話すことができる。

◆コミュニケーション力

- 相手の話を興味を持って聞き、よいところを見つけることができる。
- 見つけたよさを伝え合うことができる。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕国語科の基礎基本の定着を図る指導の充実

- ① ワークシートを工夫して、自分の考えをまとめることが苦手な児童でもまとめやすくする。(書く)
- ② 自分の考えや思ったことをノート、日記や感想カードに書いたり、発表させたりする機会を多くする。(書く・話す)
- ③ 発表を聞いて「聞いているよサイン」を送ったり、質問したり、コミュニケーションの基本的なやりとりを身につけさせる。(聞く・話す)

〔視点2〕学習形態や場の設定の工夫

- ① ペア・グループ・学級全体など、話し合いにふさわしい場の設定するとともに、発表対象を変えることで新鮮な気持ちで繰り返し発表練習をさせる。また、発表の対象が変わることで、声の調子も変えることを指導する。
- ② 発表台の設置、聞き手の位置、掲示物の工夫など、話し合いにふさわしい場の設定の工夫する。

〔視点3〕朝の会・帰りの会など、日常生活での指導の工夫

- ① 日直スピーチ用メモを書き、メモを見ながら身近なことを話す活動をさせる。また、聞き手は質問し、またその質問に答えるという活動の定着化を図る。
- ② 帰りの会で読み聞かせを行い、お話を聞くのは楽しいという経験を積ませる。

4 研究テーマについて

(1) 研究テーマについて

「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」の手段として、友達の話に興味を持って聞く活動を多く取り入れるようにした。一人一人の発表の場面を増やし、それについて感想を述べ合ったり、質問に答えたりという場を多く設けた。

たとえば、朝の会では「日直スピーチ」に対する質問とその回答をすることで、コミュニケーション場面を作った。朝礼のあるときは、校長先生のお話をよく聞き、教室に帰ってから紙に書く習慣をつけ、発表させた。話をよく聞くことは、コミュニケーションの第一歩であると考えたからである。

帰りの会では、「花丸ニュース」で友達のよいところや親切にされたことを発表し、みんなで拍手し合った。相手に「聞いているよサイン」と送ることを身につけるために、拍手のほかに、アイコンタクト、うなずく、相づちなどをするのを習慣づけるようにした。

このように、コミュニケーションの基礎として「聞いてもらえる喜び」＝「聞いてあげたい」という意欲が出るように、毎日の中で繰り返しそのような場面を作る取り組みをしていきたいと考えている。そして、互いのよいところを発見し、伝え合える子供の姿が現れればと考えている。

第2学年2組 成果と課題

1 授業実践の振り返り

- ワークシートを工夫することで、何を書いてよいか足踏みしがちな児童が進んで書くことができた。
- 話し方・聞き方をパターン化することで、発表の苦手な児童も順序だてて発表ができた。
- 説明を助ける手段として絵をかかせたことで、相乗効果として伝えたい言葉も多く出てきた。
- グループ発表の段階でも振り返りシートを書くことで、クラス発表時に反省を活かすことができた。
- 聞き上手な児童の多いグループは活発な発表ができたが、苦手な児童の多いグループは深い意見交換ができなかった。話し合いが活発なるグループ分けの工夫が必要である。
- ワークシートなしでも臨機応変に「よりよい話し方」を考える機会も計画していく必要がある。
- 聞く人の気持ちを考えて、聞きやすい話し方ができるようにするには、自ら聞く経験のほかに「想像力」を働かせる習慣づけが必要であると感じた。

2 1年間の取り組みの成果

〔視点1〕国語科の基礎基本の定着を図る指導の充実

- ワークシートを使用することで、4月当初はなかなか考えをまとめることができなかった児童が、自分の考えをまとめることができるようになった。また、ワークシートを使用しないときも「いつ、どこで、だれが、なにをする」といった基本的な文の構築を呟きながら行いう姿が見られるようになった。
- 自分の考えや思ったことをノート、日記や感想カードに書いたり、発表させたりする機会を多く持つことで、友達の考えに触れ、互いのよさを発見できるようになってきた。
- 「聞いているよサイン」を送ったり、質問したり、コミュニケーションの基本的なやりとりを繰り返しているうちに、さまざまな場面で自然と拍手がわいたり、褒め合う姿が見られるようになった。

〔視点2〕学習形態や場の設定の工夫

- ペア学習では「ネズミの声で話そう」と声を掛け合ったり、グループ学習では指示がなくても「発表の順番を決める」ことができるようになった。
- 発表台を設置することで発表する意欲が高まった。
- 話す形態に合った机の配置に、自分たちで提案して、素早く移動できるようになった。

〔視点3〕朝の会・帰りの会など、日常生活での指導の工夫

- 毎日の日直スピーチでは、メモを見ながら身近なことを話すことが抵抗なくできるようになった。また、聞き手は質問し、話してはその質問に答えるという活動の定着化を図ることで、コミュニケーションの基本的なやりとりを身につけることができた。
- 帰りの会で読み聞かせを楽しみにしており、お話を聞くために掃除を早く終わらせようと声掛けし合ったり、協力する姿が見られるようになった。

〔その他〕

- 学級便りで作品や文章を紹介することで、読まれることを意識した文章作りができるようになってきた。

3 課題

- 繰り返し書かせることで、面倒くさがって書かないという児童が減ったが、まだまだ文章表現や言語事項の指導を要する児童がいる。国語力の向上は様々な角度から継続的な指導が必要であると思う。
- 自分の興味のない分野の話だと、聞く集中力が落ちる児童がいる。「友だちの話」＝「興味を持って聞きたい」と思えるように個別に指導する必要がある。

第2学年3組

1 研究テーマ 「返事やあいさつがきちんとできる子どもの育成」

2 育てたい力

◆ 表現力

- 返事やあいさつがきちんとできる。
- 自分の意志や考えを言葉にする。

◆ コミュニケーション力

- 人の話を、自分のこととして受け止める。
- あいさつの言葉、相づち、返答の仕方等、コミュニケーションのスキルを身に付ける。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕 返事やあいさつを徹底し、自分の意志や考えをもつ。

- ① 返事やあいさつによって、人に声をかけたり答えたりすることへの抵抗をなくし、人とのかかわりを多くする。
- ② 自分の意志や考えなどを、ノートに書いたり発表させたりする機会を多くする。
- ③ ①と②によって、じぶんなりの意志や考えを人に伝えられるようにする。

〔視点2〕 人の話を、自分のこととしてしっかりと聞き、その場に応じた反応を示す

- ① 集団の中でも、教師の言葉や友達の発言を自分なりにしっかりと受け止める。
- ② コミュニケーションのスキルを身に付け、人の話に対して自分なりの反応を表に出す。
- ③ ①と②によって、言葉や話のやりとりを習慣づける。

4 研究テーマへのアプローチ

(1) 研究テーマについて

校内研究のテーマである「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」の具体的な手だてとして、我がクラスでは、返事やあいさつがきちんとできることを、まず第一のねらいとした。

返事やあいさつがきちんとできることを取組の入り口として、さらに次のような手だてを講じながら、様々な人とのかかわりを多くしていきたいと考えている。

例えば、あいさつの言葉、相づち、返答の仕方、アイコンタクトなど、人とのかかわり方のスキルを身に付ける。それを使って人の話に対して自分なりの反応を表に出す。

自分の意志や考えなどを、ノートに書いたり発表させたりする機会を多くする。

読み聞かせや朝・帰りの会の話し合いなどを通して、集団の中でも、教師の言葉や友達の発言を、自分のこととしてしっかりと受け止める習慣をつける。

このように、日常生活の中で、目に見えることを実践し、そこを入り口として、表現力、コミュニケーション力が必然的に求められる場を多くすることによって、具体的な子どもの姿として現れる取組をしたいと考えている。

(2) 研究授業 生活科「わたしのまちをたんけんしよう」(みつけたことをおしえあおう)

第2学年3組 成果と課題

1 授業研究の反省

- 参観に来た先生に自分からあいさつをしに行っている子どもが数名いた。
- 特種新聞の原稿の読み合わせについて
 - ・ 「特ダネ」「じゅんじょ」「まちがい」そして「一言」という観点を示したことで、何を読みとればよいかというねらいが明確になった。
 - ・ 友達から指摘されたことを受け止めて、「新聞に書くときにこうする」「字をていねいに書く」「これを書くのを忘れていた」などというつぶやきが聞こえた。
 - ・ 友達の原稿を読んで、○△という評価はできる子どもが多かった。
 - ・ 友達の評価を受けて、原稿を直したり新しいことを付け加えたりすることは、まだまだ難しいことだと思った。継続的な指導の必要性を感じた。
 - ・ 文章を書くことに拒否感をもったり抵抗を感じたりしないように、よりよいものを目指しながらも、指導のし過ぎや時間のかけ過ぎに注意する必要がある。
 - ・ 文章を書くことがとても苦手な子どもは、友達に読まれることに苦痛を感じると思われる。そういう子どもには事前に教師が多くかかわって、ある程度形を整えておくというような配慮も時には必要である。

2 1年間の取組の成果と課題

(1) 成果

◆ 視点1「返事やあいさつを徹底し、自分の意志や考えをもつ」

- 元気の良いあいさつが定着した子どもがいた。あいさつの必要性や心を教えることは大切だが、すすんであいさつ運動によって形を教え、それによって、あいさつの気持ちのよさや人とのかかわりの楽しさを味わわせることも有効な手段であると分かった。
- 学習のルールとして、発表したいときは挙手をする、指名されたら返事をして立つことを徹底させた。多くの子どもはきちんとルールを守れるようになった。
- はじめは4人という少人数グループ内での発表や意見交換、その後クラス全体で発表など、発表の場に大小をつけたことで、人前で話すことに抵抗を示す子どもが少なくなった。

◆ 視点2「人の話を、自分のこととしてしっかりと聞き、その場に応じた反応を示す」

- 帰りの会では、毎日読み聞かせを続けた。それによって話に集中する子どもが多くなり、面と向かって話されることでなくても、自分のこととして受け止められるようになった。
- 「結論→理由→結論」という話し方、番号を付けて理由を説明する、また、聞く側も「どうしてですか」「だから」などと発表中に言葉を発するようやりとりを入れるなど、様々なパターン化したスタイルで発表させた。話を整理して発表し、聞く側も流れの中で見通しをもって話を受け止めることができたようだ。パターンが身に付いたことで、「なんて言ったらいいかわからない」という子どもは見られなくなった。

(2) 課題

- 文章表現力の向上には、書く機会を多くする、言語事項を指導する、文章表現を指導する、書きたいと思う気持ちを膨らませる、など様々な角度から継続的な指導が必要である。

第2学年4組

1 研究テーマ

「返事やあいさつがきちんとできる子どもの育成」

ー生活・国語（読書指導）・道徳の学習を通してー

2 育てたい力

*表現力

- ・返事やあいさつがきちんとできる。
- ・相手の話を静かに聞くことができる。
- ・知らせたいことを相手を意識して話すことができる。

*コミュニケーション力

- ・相手を意識して返事やあいさつをすることができる。
- ・言葉の持つ力や影響力を考え、相手の気持ちを考えながら話をするすることができる。

3 研究の視点と手だて

【視点1】返事やあいさつを徹底し、相手を意識し、自分の意志や考えを持つ。

- ①あいさつをすることで、相手を意識して人と関わりを持たせるようにする。
- ②返事の徹底を心がけ、自分の考えや意志をはっきりと示させる。
- ③手だて・・・あいさつを意識づけできるような掲示をする。（おはよう・ありがとう・ごめんなさい・さようなら等）
一年生からの継続でしてきた学習訓練が徹底できるように指導する。（はい。～です。等ていねいな返事や話し方。）
国語科・生活科・道徳・学活等あらゆる場面で実践する。

【視点2】相手の話を静かに聞き、場に応じた対応や話をすることができる。

- ①集団の中で、教師の言葉や友だちの話を最後までしっかり聞くことができるようにする。（話を途中でさえぎらない。話に対する返事や反応を示す。）
- ②友だちの発表を聞き、自分の意見を発表したり文章に表したりする機会を多くする。
- ③手だて・・・読書指導や帰りの会に読み聞かせをおこない、静かに話を聞く機会を多くする。
道徳や学活を通して、相手の気持ちを考えて話をするように意識づけさせる。
朝の会でのスピーチを工夫する。（聞き方・話し方）

第2学年4組 成果と課題

1 研究の成果

【視点1】返事やあいさつを徹底し、相手を意識し、自分の意志や考えを持つ。

＜あいさつ・返事・ていねいな話し方＞

- 担任からの声がけだけではなく、声の大きさやタイミングの良い児童を誉めたりするなど工夫してきた。ときどき意識させることにより成果が出てきたと考える。
- 常に相手の気持ちを考えて話したり行動したりできるように、今週のめあてとして掲示したり自己評価をさせながら指導してきた。毎週自己評価するので成果が出てきている。

【視点2】相手の話を静かに聞き、場に応じた対応や話をすることができる。

＜読書指導を通して＞

- 読み聞かせや読書タイムの時間の中で、静かに話を聞いたり読んだりする活動を多くすることにより、本の楽しさが分かり落ち着いて学習に取り組むことができるようになった。

＜発表の仕方の工夫＞

- 発表の回数によって手を挙げるときに指数を表すようにすることにより、以前より発表が活発になってきた。

＜朝の会でのスピーチ＞

- スピーチメモを工夫し、事前に話すことをメモしてきてスピーチをするので、みんなの前で話することに抵抗が少なくなっている。
- スピーチへの質問を設けることにより、スピーチ内容をよく聞いて質問内容を考えることができるようになってきている。

【研究全体を通して】

- 教育活動全体を通して指導してきた。いつも意識して指導してきたことで話の聞き方・話し方・発表に成果が出てきた。
- 校内意識調査によると、5月実施より1月実施のクラス全体のプラス（++）が下がってプラス（+）が上がっている。反対にマイナス（--）が下がりマイナス（-）が上がっている。話の聞き方や発表の仕方が良くなっていると思うので、児童の意識がより自分自身に厳しく自己評価ができてきたのではと考える。

2 今後の課題

- 話の聞き方は、以前に比べると静かに聞く時間が長くなっているが、個人差がある。児童の性格を考え対応をさらに工夫する必要がある。
- 朝の会のスピーチは、内容が決まってきているので、テーマにそった内容などを提案していけばよかった。

第2学年5組

1 研究テーマ 「自分の考えをしっかりとつ子供の育成」－国語科の指導を通して－

2 育てたい力

◆ 表現力

- 自分の意志や考えをしっかりと、話したり書いたりできる。
- 人に知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら分かりやすく話したり書いたりできる。

◆ コミュニケーション力

- 人の話を自分のこととして受け止める。
- 人の話を聞いて、自分の意志や考えを伝えることができる。

3 研究の視点と手立て

〔視点1〕 友達の良さを認め合い、自分の意志や考えをもつ。

- ① 友達の良さを認め合う学級の雰囲気を作り、自分の意志や考えを発表しやすくする。
- ② 自分の意志や考えをノート、日記、作文に書いたり発表させる機会を多くし、分かりやすい表現をほめる。

〔視点2〕 人の話を自分のこととしてしっかり聞き、自分の意志や考えを伝えることができる。

- ① 集団の中でも教師の言葉や友達の発言を自分なりにしっかりと受け止める。
- ② 発表の仕方に気を付けて、自分の意志や考えを伝えることができる。

4 研究テーマへのアプローチ

(1) 研究テーマについて

校内研究のテーマである「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」の具体的な手立てとして、我がクラスでは、自分の考えをしっかりとつことを第一のねらいとした。

表現力、コミュニケーション力を高めるには、まず自分の考えをもたなければ表現はできず、人とコミュニケーションはできない。自分の考えをしっかりとつことができれば、それを他の人に伝えたい気持ちになれると思う。そこで、週に一度日記を宿題にして、日記を通して物事をよく観察させ、自分の考えをもつように働きかけている。日記を書くことで、物事をよく観察したり、自分の考えをもつようになってきていると思う。また、考える機会を増やすために読書を奨励し、週に一回の図書室利用の時間には、読み聞かせを実施している。

それから、授業の中で自分の考えをもち、発表することを大切にしている。まちがっていると思われる考えでも、人の考えを大切にする雰囲気作りをし、発表を奨励している。また、表現力、コミュニケーション力が必然的に求められる場を多くすることで、子供の姿が表れる取り組みをしたいと考える。

第2学年5組 成果と課題

1 授業実践の振り返り (成果○ 課題●)

- 発明品の紹介をする際、聞き手により分かりやすく詳しく紹介できるように、伝える内容を「どんなものか」「形やようす」「できること」と事柄ごとに整理させたことが有効だった。
- 話し手への質問の手助けになるように「聞き方おたすけカード」を準備したところ、質問が思い浮かばない場合、手がかりになっていた。
- 4人グループの中で3通りのペア学習を取り入れたことが学習意欲を高め、伝え合う力も高まった。
- 友達に質問されてもなかなか考えつかなくて答えられない児童もいるので、説明を加えて想像できるように、グループ内でアドバイスするか教師の個別指導が必要である。
- 発明品の紹介をより分かりやすく詳しくするために、質問して答えることはできても、そのほかの有効なアドバイスはなかなか出てこなかった。

2 1年間の取組の成果と課題 (成果○ 課題●)

- ◆ [視点1] 友達の良さを認め合い、自分の意志や考えをもつ。
 - 友達が良い考えを発表したり、良い行為をしたりした時、拍手して認め合うことにより、発表しやすい雰囲気を作れた。
 - 毎週1回日記を書かせ、そのいくつかを紹介したり、ノートにまとめた自分の考えを発表させたりすることにより、子供たち同士がお互いの考えを知り、友達の良さを認め合うことにつながった。
- ◆ [視点2] 人の話を自分のこととしてしっかり聞き、自分の意志や考えを伝えることができる。
 - 国語の図書室利用の時間に読み聞かせを実施し、それによって話に集中する子供が増えてきた。
 - グループ毎の話し合い活動、クラス全体での話し合い活動を通して、自分の考えをしっかりもち、人の話を聞く態度が身についてきた。
 - 人の話がなかなか自分のこととして受け止められず、なかなか話を聞けない子供もまだいるので、個別指導を繰り返していく必要がある。
- ◆ その他
 - 文章力向上には、たくさん文章を書かせる活動が必要で、その際に言語事項の指導、文章表現の仕方の指導、観察力をもたせる指導が必要であると思う。
 - 表現力、コミュニケーション力を高めるために、本を読んだり、たくさんの人と話したりしながら、日常生活のいろいろな場面で物事を考える機会をたくさんもち、その考えを深めていくことも大切であると思う。